

■ 河合塾テキスト「高3 共通テスト対策地理〈2025 2学期〉」演習問題 解説 ■

【第22講（第9講）】

解答番号	正解	解説	重要度
1	③	③：誤り。老人人口 1,000 人当たりの養護老人ホーム定員数は、三大都市圏で低位、中国、四国、九州などの非大都市圏で高位となっていることが読み取れる。①：正しい。老人人口率は、三大都市圏で低位、東北、北陸、四国など非大都市圏で高位となっていることが読み取れる。②：正しい。老人人口の増加率は、三大都市圏と北海道で高位となっていることが読み取れる。④：正しい。1950 年代後半から 1970 年代前半の高度経済成長期に、三大都市圏に流入した 20 歳代を中心とした世代が高齢期に入ったと考えられる。	★
3	④	④：誤り。農地を分割すると小規模経営となるため、農業の生産性は低下する。①：正しい。1 年間に同じ作物を同一耕地で 2 回栽培する二期作や、1 年間に 2 種類の作物を同一耕地で栽培する二毛作が行われていた。②：正しい。耕地面積に対して、作付・栽培延べ面積が下まわってきてていることから、耕作放棄地が増加していると考えられる。③：正しい。とくに地方農山村地域では、農業人口の高齢化や減少が深刻となっている。	★★
3	③	③：鉄鋼。基礎素材型の重工業で、1970 年代以降、輸出総額に占める割合は低下していたが、近年は新興国などでの粗鋼需要の拡大などから、輸出総額に占める割合は再び増加した。①：自動車。現在の日本の基幹産業である。②：半導体等電子部品。1970 年代以降、輸出総額に占める割合を拡大してきたが、近年は新興国の台頭で頭打ちとなっている。④：綿織物。軽工業で労働集約的な業種であるため、製造拠点の海外移転などによって、1960 年代以降、輸出総額に占める割合は低下した。	★★